



## World School Combat Game 2017

アッサラームアライクム！

7月7日～15日、インドのアーグラにてISF World School Combat Game 2017が開催されました。UAEのチームからはテコンドウと柔道のチームが参加しました。柔道の参加国は、ブラジル、フランス、インド、そしてUAE。世界でも強豪な国が参加しました。今回の遠征はUAEの教育省の協力の下、行って参りました。UAEチームから、団長のアハメッド氏（写真左：UAE教育省体育部門所長）、ムバラク氏（UAE体育教員）、モハメド氏（写真左二人目：UAEレスリング&柔道連盟）、アブドラ氏（UAEテコンドウ連盟・テコンドウ審判）、サラム氏（写真右二人目：UAE教育省スポーツ部門）、そして私が選手を引率しました。

7月7日21時頃、私たちはインドに到着しました。私自身初のインドです。到着後、入国審査で少しトラブルがありましたが、無事に全員入国できました。しかし、乗る予定のバスがどこにも見当たらず、1時間近く立ち往生。ガイドは、新しいバスを手配していたので、状況を聞いたところ、我々が時間通りに出てこなかったもので、バスは帰ったとのことでした。嘘か本当かはわかりませんが、不思議な国だなと思えました。ようやくバスが到着し、ホテルへ移動することになりました。

### —出来事—

●次は JUA Cadets  
& Junior in Hong  
Kong 2017 編です。

今月の  
アラビア語

「ゼイン」

意味：元気です。

شكرا

シユクラン日記

9月号  
インド編

バスに揺られること 4 時間弱、ホテルがあるアーグラへ到着しました。到着すると、ホテルマンより 2 点、注意事項を受けました。1 つ目、「水道水は飲まないこと」2 つ目、「1 人でホテルの外には出ないこと」初めてホテルマンにホテル外には行くなと言われてました。

翌朝、大会のオープニングセレモニーの為、会場である ST. ANDREWS SCHOOL へ出発しました。すると早速、バスの入り口に、インド人の列ができていました。歓迎をしているような雰囲気ではなく、手造りのネックレスを片手に穴の開いた T シャツを着た子供、痩せ細った乳児を抱えたガリガリの女性、片腕の無い男性が並んでいました。私は唖然としました。昨夜にホテルマンが言っていたことが分かりました。バスに乗り込み会場へ。

到着すると、会場は盛大に盛り上がっていました。警官がカーペットの端に並び敬礼、壮大な楽器の演奏が聞こえました。皆、遠慮していましたがおでこに赤い点（ビンディ）を塗ってもらい、会場内へ入場しました。また、平日であったため教室から沢山の小学生にも大声援で迎えられました。

7 月 9 日大会当日、カデの試合が始まりました。この大会で、彼らは世界トップレベルの選手たちとのレベルの差を痛感することになりました。今回の大会では各階級の人数が少ない為、リーグ戦で行われ、平均で 1 人 3 試合を行うことになりました。初日の今日は、UAE から 3 人が出場しました。しかし、結果は全員完敗。手も足も出すことができず、一本負けばかり。

7 月 10 日大会二日目、カデの試合後半とジュニアの試合です。本日は、カデ 2 人、ジュニア 1 人が出場しました。二日目の結果、カデは昨日と同

様完敗。残念ながら昨日の完敗を挽回できず終わってしまいました。午後、ジュニアの部が始まりました。UAE からは 1 人が出場しました。カデの選手がことごとくやられる中、見事準優勝。UAE に銀メダルを持ってきてくれました。決勝は、ブラジル選手と対戦しました。試合は順調に進んでいましたが、練習・トレーニング量が格段に少ない UAE 選手は、試合後半にバテ始めます。それを見逃さなかったブラジル選手は猛攻撃を始めました。結果、一本は避けたものの、技有が 3 つ、指導 2 つと完敗。チームとしても沢山課題が残りました。しかし、自分のモチベーションをしっかりと作り、見事準優勝に輝いてくれました。この日、大会は終了しました。

翌日、柔道種目が終了しており、大会が終了するまで特にプランはなかったので、帰国する予定をたてていました。しかし、大会側より今後もイベントがあるということで予定を変え、最終日までいることにしました。しかし、残ってみると結局ノープラン。役員に確認したところ、やりたいことをやって良いと報告を受けました。それなら、合同練習をやろうと思い、3 カ国の監督とミーティングを行いました。大会役員より「練習場を作っておくから、翌日の 17 時に来てくれ」と言われたので各国の監督に報告、翌日、練習会場に行きました。

しかし、通されたのは学校の教室。先に来ていたブラジルの監督が「チェンジングルームだ」と言いながら出てきました。そこには 15 畳ほど畳が敷かれていました。確かに、各国 10 人ほどが参加する中、15 畳ではウォーミングアップもままなりません。皆が、ホテルへ帰ろうとしている時、私は廊下に積まれていた畳を見つけました。「グラウ

ンドに敷いてやろう！」と冗談で言っつもりでしたが、一致団結。急遽、芝生の上に畳を敷き、合同練習が開始されることになりました。



皆で協力し合い、畳を敷き、柔道をする。このお陰で選手同士が打ち解けあい一気に仲良くなりました。

翌日も皆で畳を敷き練習開始、ウォーミングアップを始めた瞬間、今まで晴れていた空から急に大雨が降っていきました。夕立です。慌てて、練習を中断。ホテルへ着き、バスから降りると、ホテル側は降っていませんでした。それならば、UAEの選手を集め、練習開始です。海外チームがプールで遊んでいる中、プールサイドに広場があったので練習を開始しました。私事ながら、「可愛がっているなあ」と感じました。それに文句も言わず練習してくれる選手たち、嬉しいですね。

7月13日、翌日14日は1日中閉会式ということで、本日は、チーム全員で観光に行くことにしました。世界遺産であるタージマハルと近くにあるアーグラ城を見に行くことになりました。朝9時、ホテルを出発しタージマハルへ。しかし、エントランスからチケット売り場まで歩いてから、引き返すことに。理由を聞くと、チームスタッフが「昨日行ったから」でした。実際に、私も一人で行きましたので選手に対して罪悪感が残りまし

たが、次のアーグラ城へ。



全員で行くことはできませんでしたが、チームとして大変貴重な経験をさせていただきました。私としては、タージマハルよりアーグラ城の方が好きでした。



7月14日、この日は閉会式でした。私たちは、集合時間の昼食前12時に会場へ向かいました。この写真撮影時、UAEに帰国したら、彼らの来ている衣装（カンドゥーラ）を買おうと決意しました。

会場に昼食が用意されているということで会場に行きましたが、いざ到着してみると開会式の準備だけがしてありました。お腹を空かせている私たちは一旦帰ろうと考えましたが、直ぐに閉会式

が始まるということで待機することに。しかし、一向に始まる気配はありませんでした。着々と時間が過ぎる中、UAEの団長は、もう一度帰ろうとしました。しかし、役員に止められ再び待機。一先ず、水をくれと役員に要求しましたが、たまりかねたブラジルチームは会場を出て行ってしまいました。何せ4時間以上待たされています。更にお昼御飯があると云われて集合したにもかかわらず、水すらない状態。沢山料理が用意してあると聞いていたので、UAEチームに、朝ご飯はそこそこにするようにと指示をしてしまったことを後悔しました。

一向にブラジルチームが戻ってこないのに、UAEチームも一旦出ようとしたのですが、バスがないからと引き戻されました。結局、5時間弱待ったところで、大会会長を含め大会の役員らが入場してきました。いよいよ閉会式が始まりました。私たちは最後の力を振り絞り、3時間の開会式を終えました。UAEスタッフの怒りを抑えながらホテルへ到着、直ぐに夕食をしにホテルのレストランへ向かいました。

こうして、ISF World School Combat Game 2017が終了しました。しかし、この翌日に私たちを呆れさせる出来事がありました。

7月15日、帰国当日朝。私たちは朝7時にロビーへ集合しました。帰国は明日の予定ですが、この日、ニューデリーに移動する予定でした。ブラジルチームも帰国するため、私たちより少し前にロビーに集合していました。私たちは朝8時にホテルを出発予定でした。チェックアウトを済ませ、バスが来るまでロビーで待機。しかし、一向にバスは来ない。

待つこと2時間、ようやく役員と連絡がとれ、

彼らがホテルに来ました。寝坊したそうです。やっとバスが来ると思いホテルを出ようとする、役員は朝ご飯を食べていないと言い、レストランへ。両国のスタッフがはやく出なければならない旨を伝えると「バスはまだ来ていないから、朝ご飯を食べさせてくれ」と言ってきました。唾然としました。最終的にブラジルチームのバスが来たのは12時、UAEチームのバスは13時に迎えが来ました。その後、バスによられること4時間弱、ようやくニューデリーへと到着することが出来ました。

最終日にまでハプニングがありましたが、この大会を振り返り、柔道・スポーツを通して各国の仲間ができました。普段では接することのない体験をさせていただきました。それを一番感じたのは、車道を歩く牛の量です。

毎日の様に、ハプニングはありましたが10人いれば10通りのやり方があるように相手には相手の考えがあり、自分が間違えだと思っていなくても相手にとってはそれが普通なのかもしれません。そんな感じで、落ちついて物事を振り返れるようになった原口です。更に振り返れば、柔道でトップレベルの選手と試合、合同練習ができ、新たに課題を見つけることができた遠征でもありました。今回の遠征をサポートして下さったUAE教育省に感謝申し上げます。

(UAE柔道連盟 原口直也)